

■ 全体講評

午前Ⅰ・Ⅱでは、本試験と違い、公開模試では過去問題を出題していないので、難易度は高かったと判断します。午後Ⅰ試験は、本試験と同程度もしくは易しい難易度だったと判断します。午後Ⅱは、設問において明示的に、前述した内容を踏まえる展開を求めているため、この論旨展開を盛り込むことが難しかったと判断します。それにもかかわらず、高得点者が多いことは、受験者全体のレベルの高さの表れでしょう。特に、休日を返上して会場受験した方のモチベーションは高いため、それに比例して得点力も高いと判断します。

例年に比べて、記述式や論述式において、体裁の整った解答が多いことから、レベルの高い試験になることが予想できます。以前は、問題の選択が適切でない方が3%ほどでしたが、今回は1%に下がっています。今後は毎年少しずつ、レベルの高くなる試験になると予想できます。今回で合格できるよう一緒にがんばりましょう。

次に午後Ⅰ記述式問題の各問について、採点基準と講評を説明します。

<午後Ⅰ>

問1 e-ラーニングシステムの設計

【採点基準】

【設問1】

解答例と同じものに対し3点。その他は、基本的に0点。合計12点

【設問2】

解答例と同じものに対し1項目につき2.5点、合計10点。誤りがあれば1項目につき-2.5点

【設問3】

解答例と同じものに対し4点、その他は、基本的に0点。合計12点。

【設問4】

クラス名は、解答例と同じものに対し4点、その他は、基本的に0点。追加すべき操作は、解答例と同じものに対し5点、どちらか一方でも誤りや不足があれば0点。メッセージに対する働きは、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。その他は、基本的に0点。

【講評】

多重度は頻度の高い出題ポイントですから、必ず正解できるようにしておきましょう。低い難易度の設問にもかかわらず[設問1]の正答率が低いです。ここが他の受験者と差がつくポイントと考えてよいでしょう。正解の導き方を確認して、過去問題などで復習しておくといでしょう。

穴埋めの解答は周辺をチェックして、できるだけ正確に書きましょう。[設問3]の穴埋めの周辺をチェックしてください。メッセージには「()」が入っています。したがって、解答にも「()」を必ず入れるようにしてください。

設問によっては正解と同じ意味では得点できないことを確認しましょう。[設問3]の解答は図1のクラス名と一致している必要があります。

設問の条件を満足しましょう。[設問4]では「追加する操作名は問題文の図1に記述されている字句を使用する」と明記されています。この記述によって、解答の範囲を絞って、採点を楽にしていると考えてください。したがって、この条件を満足しない解答は不正解となります。

問2 システム統合の企画

【採点基準】

【設問1】

(1)と(2)と(3)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。その他は、基本的に0点。

【設問2】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点。その他は、基本的に0点。合計8点。

【設問3】

(1)と(2)と(3)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。その他は、基本的に0点。

【講評】

解答は問題文に合わせて具体的に書きましょう。[設問2](2)において、「地区営業推進担当者からの情報」という解答がありました。解答はできるだけ具体的に書く必要があります。したがって、「商品販売特性情報」や、それを基にした「売れ筋商品や新規商品等の情報」と、具体的に示すようにしてください。厳しいですが、

具体的ではない解答は不正解としました。なお、「商品販売特性情報」を解答すると、問題文の文章の記述から「売れ筋商品や新規商品等の情報」を解答しにくいと思います。しかし、「売れ筋商品や新規商品等の情報」は「商品販売特性情報」を基に作成したサマリ情報と考え、両方を解答してください。

同一設問内で、解答が入れ違ってないかを確認しましょう。[設問3]の(1)と(2)の解答が入れ違ってあるケースがありました。(1)では業務改革策、(2)「商品管理システムや店舗システムにおける対応策」について問うています。解答はそれぞれ、(1)商品コードを商品部で一括して管理する、(2)JANコード以外のコードも登録できるようにする、という主旨の解答です。「業務改革策としてJANコード以外のコードも登録できるようにする、商品管理システムや店舗システムにおける対応策として商品コードを商品部で一括して管理する」という解答よりは、「業務改革策として商品コードを商品部で一括して管理する、商品管理システムや店舗システムにおける対応策としてJANコード以外のコードも登録できるようにする」という方が設問の問いに対して自然につながることを確認してください。このように入れ替わっている解答については、厳しいですが、不正解としました。

問3 内航海運運行管理システム

【採点基準】

【設問1】

- (1) 各項目、解答例と同じものに対し3点。その他は、基本的に0点。合計6点。
- (2) 各項目、解答例と同じものに対し4点。その他は、基本的に0点。

【設問2】

- (1) 各項目、解答例と同じものに対し2点。その他は、基本的に0点。合計10点。
- (2)と(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。その他は、基本的に0点。

【設問3】

- (1) ファイル名については、解答例と同じものに対し2点。その他は、基本的に0点。データについては、各項目、解答例と同じものに対し1点。その他は、基本的に0点。合計4点。ただし、誤った解答につき1点
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。その他は、基本的に0点。

【講評】

解答を問題文から解答用紙に書き写す際に、用語の書き誤りに細心の注意を払いましょう。[設問1](1)の「滞船料」を「滞納料」や「滞船量」とかいている解答が目立ちました。本試験でも誤答になるので注意しましょう。

問題文の話の流れを考慮して解答を導くと得点力がアップします。[設問3](2)において「銀行からの入金情報」という解答がありました。確かに確認作業にはこの情報は必要です。[A社の運航管理業務と運航管理システムの概要]の(6)に、「請求書発行時点で入金予定日も確定できる」、「債権の消し込みができていないのではないか」という不安が残る」とあります。論点は債権にあると考えてください。厳しいですが、「銀行からの入金情報」などの解答は不正解としました。

問4 航空機監視システム

【採点基準】

【設問1】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し3点。その他は、基本的に0点。合計6点
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。その他は、基本的に0点。

【設問2】

- (1)、(2)、(3)と(4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。その他は、基本的に0点。

【設問3】

- (1) 解答例と同じものに対し3点。その他は、基本的に0点。
- (2) 「各航空機局が一定以上の距離を保っていない場合に警告する機能」を別解としました。別解及び解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

【講評】

「解答のあたりをつける」ことも重要です。[設問2](3)では、解答率、正答率ともに低いです。この設問は少し難易度が高いです。設問を読むと「引継先の……とペアになる」という表現があります。ここで「引継先」と「ペア」という言葉から「解答は引継元に関係する」という発想はどうでしょうか。突飛かもしれませんが、そのような発想も時間内で解答するためには役立つことがあります。

<合格に向けて>

みなさん、自分の改善すべき点を確認して、合格を決めましょう。試験形態ごとには次のような改善策があります。参考にしてください。

〔午前Ⅰ・Ⅱ 多肢選択式問題〕

基本は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強するようにしましょう。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。

〔午後Ⅰ 記述式問題〕

過去問題の演習を中心に、解答を鉛筆で書くようにしましょう。解答と正解例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件をすべて満足する解答を作成することが重要です。解答欄に記入する前にもう一度解答条件をチェックしてみましょう。

〔午後Ⅱ 論述式問題〕

問題文を読解する際に留意する点は、要件定義の内容や設計の内容が本当に問われているのか、という点です。システムアーキテクト試験では設計内容などではなく、施策を問われるケースがあります。問題文の趣旨に沿ってしっかりと論述するテクニックを習得して実行してください。

課題を明示してから工夫や能力をアピールする展開はもちろんのこと、設問アで述べた、システムの特徴、ユーザ特性、業務特性など踏まえる展開を、設問イでできるようにしておきましょう。時間管理面からは、設問イからウに入るタイミングをしっかりと見計らって、時間内に論文を書き終えるようにしましょう。

試験センター発表の午後Ⅱ講評を確認すると、問題文の引用に終始する論文では合格できないことが分かります。問題文のトピックに「テーマを厳選した勉強会を行う」と書いてあった場合、論文の話の結末を「テーマを厳選した勉強会を実施した」などしないでください。

問題文のトピックは、システムアーキテクト合格論文の書き方・事例集第2版の90~92ページにあるように、工夫や能力をアピールする展開の一部とするとよいでしょう。

—以上—